

# さよなら'71熊本の夏

## 全国から公害勉強水俣

### 台風山鹿、小川、球磨で猛威

さよなら夏休み―長く、暑かった熊本の夏も、そろそろおしまい。公害の原点・水俣の夏、海外旅行ブーム、悲しい交通事故や水死、風水害、多発した日本脳炎など、ことしの熊本の夏の話題を振りかえってみると―。



記録を出した交通事故。あわれ電話ボックスもそばツエを食った(8月25日、熊本市紺屋今町で)

「公害の原点」

水俣の夏

のイメージがすっかり定着したせい

か、全国からぞくぞく若者たちが押しかけた。水俣病多発地帯の同市月浦、茂道、湯堂などの漁業乗落をジーパンやホットパンツにリユックを背負った男女学生がウロウロ。その数は百人を軽く上回ったという。

若者たちは、患者家庭に泊まり込んだりして、ミカン畑の草むしりや顔の手伝いなどに汗を流したが、なかには「訪問公害」になるような学生もいたとか。

このほか「水俣病のことを夏休みの宿題にしたいから」という中高生からの問い合わせが市役所や市民会館に殺到、関係者は複雑な表情だった。